

平成30年住宅・土地統計調査

土地集計結果

<岡山県の概要>

目 次

1	世帯が所有している土地の状況	1
2	世帯が所有している現住居の敷地以外の宅地などの状況	3

利用上の注意

- 1 本文及び図表の数値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
- 2 「-」は、該当数値がないもの又は数字が得られないものを示す。
- 3 「0」は、集計した数値が表章単位に満たないものを示す。

1 世帯が所有している土地の状況

現住居の敷地を所有している世帯は56.2%〔全国48.1%〕

現住居の敷地以外の土地を所有している世帯は19.5%〔全国13.1%〕

普通世帯780,000世帯〔全国5389万2千世帯〕のうち、現住居の敷地を所有している世帯は438,000世帯〔全国2590万6千世帯〕で、普通世帯に占める割合は56.2%〔全国48.1%〕となっている。

また、現住居の敷地以外の土地を所有している世帯は152,000世帯〔全国705万4千世帯〕（普通世帯に占める割合19.5%〔全国13.1%〕）となっており、このうち現住居の敷地以外の宅地などを所有している世帯は94,000世帯（同12.1%）〔全国464万4千世帯（同8.6%）〕となっている。

<表1>

表1 土地の所有状況別普通世帯数－岡山県（2018年）

	総数	土地を所有している世帯		
		現住居の敷地を所有している	現住居の敷地以外の土地を所有している	現住居の敷地以外の宅地などを所有している
実数（世帯）	780,000	438,000	152,000	94,000
割合（%）	100.0	56.2	19.5	12.1

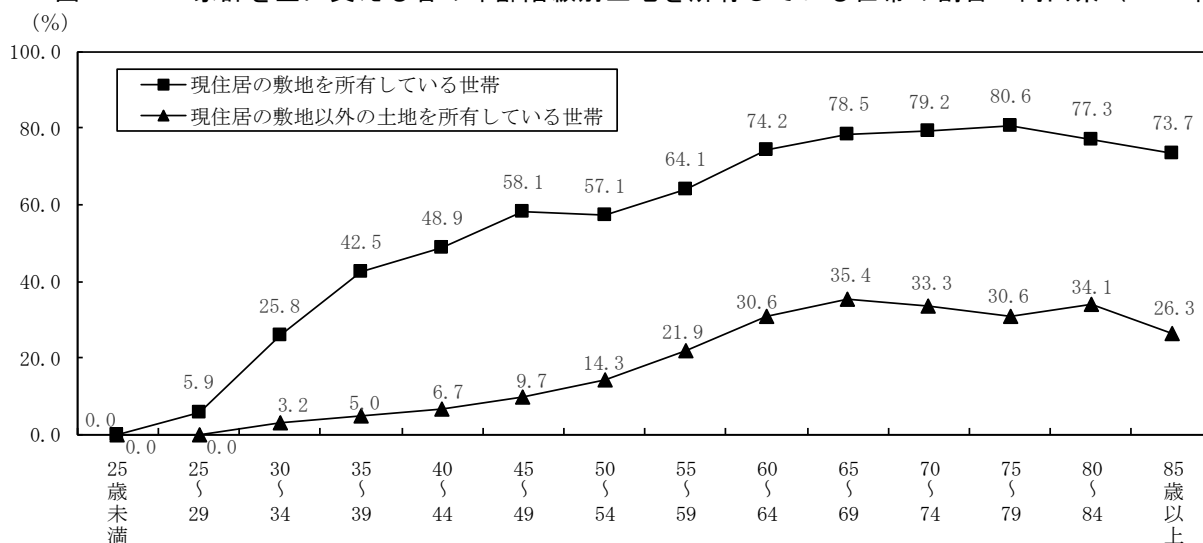
現住居の敷地を所有している世帯と現住居の敷地以外の土地を所有している世帯の割合は、いずれも家計を主に支える者の年齢階級が高くなるほど高くなる傾向

現住居の敷地を所有している世帯について、家計を主に支える者の年齢階級別に割合をみると、年齢階級が高くなるほど所有している世帯の割合が高くなる傾向となっており、「60～64歳」から「85歳以上」までの区分ではいずれも70%以上〔全国60%以上〕となっている。

また、現住居の敷地以外の土地を所有している世帯についてみると、こちらも同様の傾向となっており、「60～64歳」から「85歳以上」までの区分ではいずれも25%以上〔全国20%以上〕となっている。

<図1-1>

図1-1 家計を主に支える者の年齢階級別土地を所有している世帯の割合－岡山県（2018年）



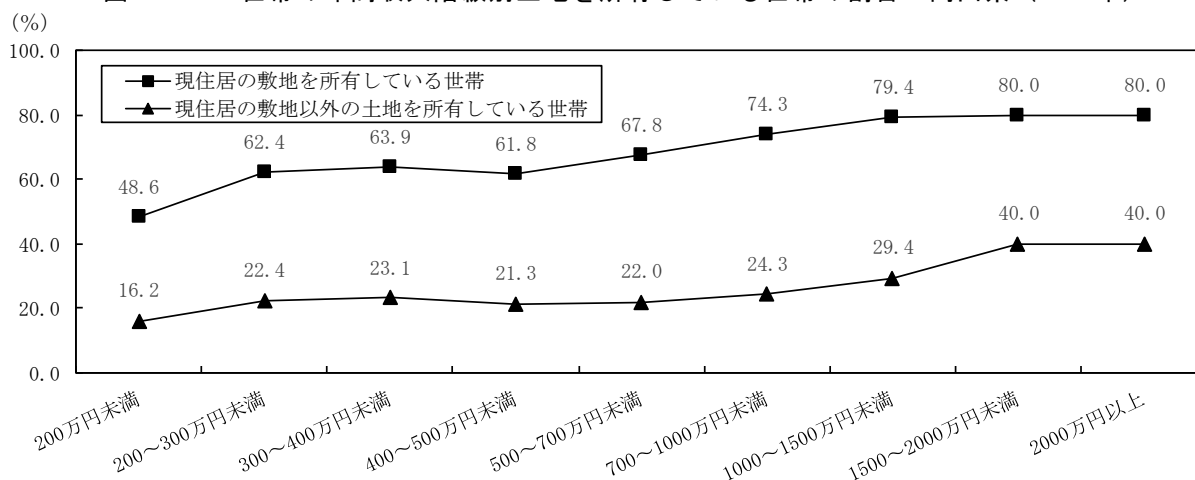
現住居の敷地を所有している世帯と現住居の敷地以外の土地を所有している世帯の割合は、いずれも世帯の年間収入階級が高くなるほど高くなる傾向

現住居の敷地を所有している世帯について、世帯の年間収入階級別に割合をみると、年間収入階級が高くなるほど所有している世帯の割合が高くなる傾向となっており、「200～300万円未満」で60%、「700～1000万円未満」で70%を超えており、「1500～2000万円未満」及び「2000万円以上」では80.0%と最も高くなっている。〔全国：「400～500万円未満」で50%、「1000～1500万円未満」で70%を超え、「2000万円以上」では78.8%と最も高くなっている。〕

また、現住居の敷地以外の土地を所有している世帯についてみると、こちらも同様の傾向となっており、「1000～1500万円未満」で25%を超え、「1500～2000万円未満」及び「2000万円以上」では40.0%と最も高くなっている。〔全国：「1000～1500万円未満」で20%を超え、「2000万円以上」では39.4%と最も高くなっている。〕

＜図 1－2＞

図 1－2 世帯の年間収入階級別土地を所有している世帯の割合－岡山県（2018年）



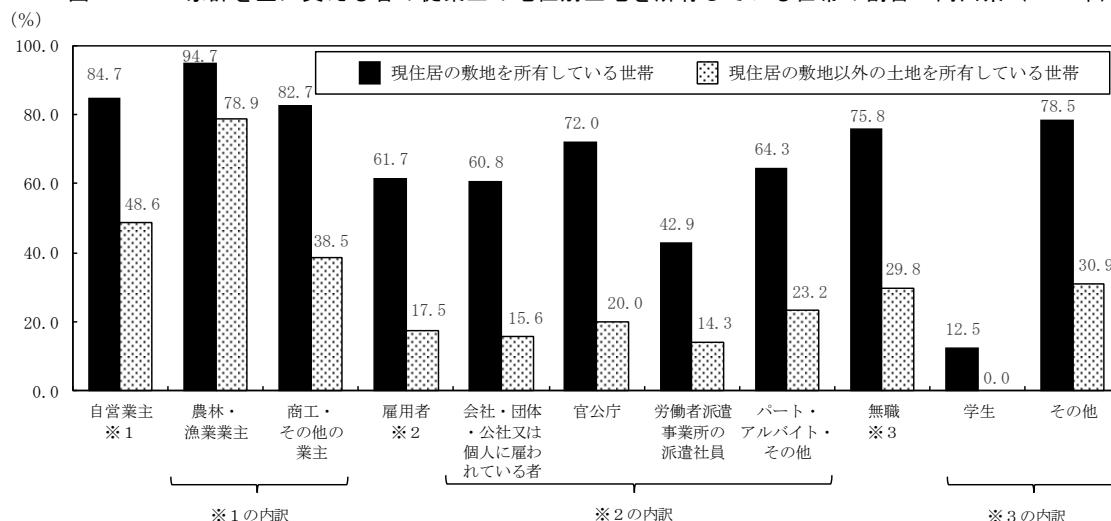
「自営業主」は、現住居の敷地を所有している世帯と現住居の敷地以外の土地を所有している世帯の割合が高い

現住居の敷地を所有している世帯について、家計を主に支える者の従業上の地位別に割合をみると、「自営業主」が84.7%〔全国76.8%〕と最も高く、次いで「無職」が75.8%〔全国70.8%〕、「雇用者」が61.7%〔全国55.3%〕となっている。

また、現住居の敷地以外の土地を所有している世帯についてみると、こちらも同様の傾向となっており、「自営業主」が48.6%〔全国38.0%〕と最も高くなっている。

＜図 1－3＞

図 1－3 家計を主に支える者の従業上の地位別土地を所有している世帯の割合－岡山県（2018年）



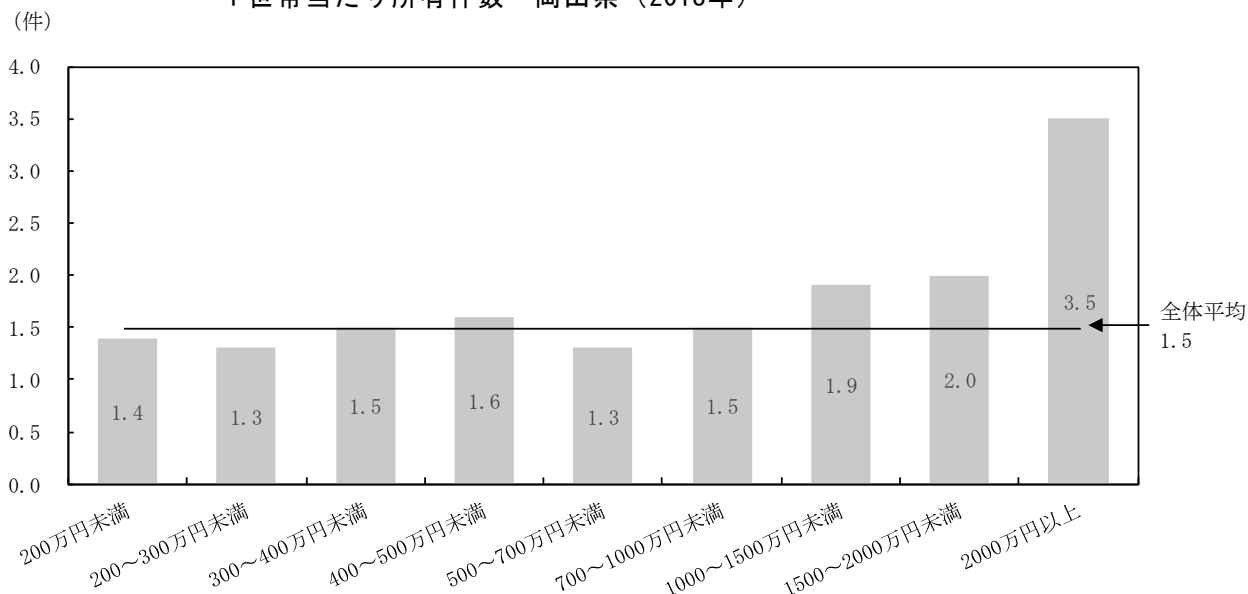
2 世帯が所有している現住居の敷地以外の宅地などの状況

現住居の敷地以外の宅地などを所有している世帯の1世帯当たり所有件数は1.5件〔全国1.5件〕、世帯の年間収入階級が高くなるほど増加する傾向

現住居の敷地以外の宅地などを所有している世帯について、1世帯当たり所有件数をみると1.5件〔全国1.5件〕となっている。これを世帯の年間収入階級別にみると、年間収入階級が高くなるほど1世帯当たり所有件数が増加する傾向となっており、「2000万円以上」では3.5件〔全国2.6件〕と最も多くなっている。

<図2-1>

図2-1 現住居の敷地以外の宅地などを所有している世帯の年間収入階級別1世帯当たり所有件数ー岡山県（2018年）

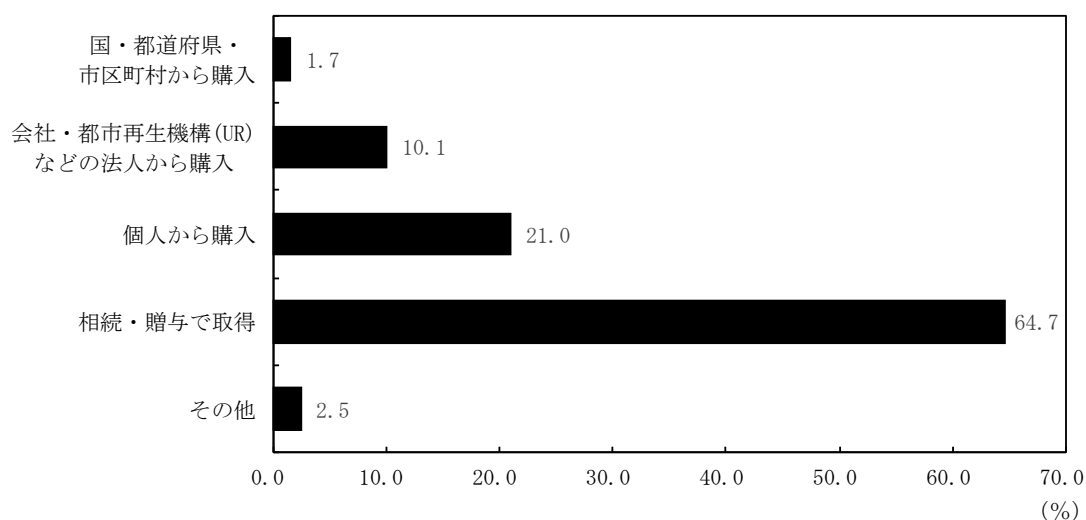


現住居の敷地以外の宅地などの取得方法は、「相続・贈与で取得」が64.7%〔全国60.8%〕

現住居の敷地以外の宅地などの所有件数について、取得方法別に割合をみると、「相続・贈与で取得」が64.7%〔全国60.8%〕と最も高く、次いで「個人から購入」が21.0%〔全国22.2%〕、「会社・都市再生機構(UK)などの法人から購入」が10.1%〔全国11.8%〕などとなっている。

<図2-2>

図2-2 現住居の敷地以外の宅地などの取得方法別所有件数の割合ー岡山県（2018年）



現住居の敷地以外の宅地などのうち住宅用地・事業用地の利用現況は、「主に建物の敷地として利用」が67.0%〔全国68.3%〕

現住居の敷地以外の宅地などの所有件数について、利用現況別に割合をみると、「住宅用地・事業用地」が94.3%〔全国95.1%〕、「その他（原野など）」が5.7%〔全国4.9%〕となっている。このうち「住宅用地・事業用地」について、その内訳をみると、「主に建物の敷地として利用」が67.0%〔全国68.3%〕と最も高く、「利用していない（空き地）」が17.4%〔全国15.9%〕、「主に建物の敷地以外に利用」が15.7%〔全国15.9%〕となっている。

＜表 2＞

表 2 現住居の敷地以外の宅地などの利用現況別所有件数の割合－岡山県（2018年）

現住居の敷地以外の宅地などの利用状況	所有件数（%）	
	割合－1	割合－2
総数	100.0	
住宅用地・事業用地	94.3	100.0
主に建物の敷地として利用	63.1	67.0
居住用	47.5	50.4
事業用	11.5	12.2
その他の建物	4.1	4.3
主に建物の敷地以外に利用	14.8	15.7
利用していない（空き地）	16.4	17.4
その他（原野など）	5.7	

○割合－1 は、現住居の敷地以外の宅地などの利用現況総数に占める割合

○割合－2 は、現住居の敷地以外の宅地などの利用現況のうち、住宅用地・事業用地総数に占める割合

現住居の敷地以外の宅地などの所在地は、「現住居と同じ市区町村」が82.1%〔全国70.5%〕

現住居の敷地以外の宅地などの所有件数について、所在地別に割合をみると、「現住居と同じ市区町村」が82.1%〔全国70.5%〕と最も高く、次いで「自県内」が12.2%〔全国15.1%〕、「他県」が5.7%〔全国14.4%〕となっている。

＜図 2－3＞

図 2－3 現住居の敷地以外の宅地などの所在地別所有件数の割合－岡山県（2018年）

